

大阪インターナショナルチャーチ ゲストスピーカー：デービッド・テイラー

中心聖句：ヨハネの福音書 3:16-18

2023/06/04

はじめに

私たちは皆、いつか死にます。私は本日、あなたが信じていない、又は、私たちが同意できないような見解を述べるかもしれません。しかし、私たちは皆、ある時点で最後の息を引き取り、人生が終わるということに同意できる。皆、死ぬのです。

2週間ほど前、私が尊敬していた牧師、ティム・ケラー氏が亡くなりました。もしかしたら、彼のことを聞いたことがあったり、彼の仕事を知っているという方もいらっしゃるかもしれません。ティムはニューヨークで教会を立ち上げました。しかし、彼の働きの影響は世界中に及んでいました。私はニューヨークからそう遠くない場所で育ちました。ニューヨークで教会を立ち上げるのはとても難しい場所であることは知っています。しかし、ティムはそれを実行し、神は忠実でありました。ティムには、聖書に基づいた思慮深いメッセージを伝える特別な能力があり、私の「頭と心」の両方に響きました。彼のメッセージのお陰で、私の信仰が成長するのを助けてくれました。彼はニューヨークの文化的背景を理解し、人々を愛しました。また、彼はグローバルに説教し、この世界の人々を愛しました。何よりも、彼は自分の神である主を愛し、隣人を自分のように愛そうとしました。彼が亡くなられて、惜しまれています。

今日のメッセージは、ティムが愛した神についてです。日本や世界中の多くの人々が愛している神についてです。さらに重要な事に、このメッセージは、私たち一人ひとりに対する神の偉大で犠牲的な愛に焦点を当てたものであります。それは、イエス・キリストとの個人的な関係という確固たる土台の上に成り立っています。

今日の聖句は、ヨハネの福音書 3:16-18 です。適宜、今日のメッセージをサポートするために、ティムから関連した観察を共有します。また、今日のメッセージは、3つの質問を使って構成します：**What (何)**、**Why (なぜ)**、**How (どのように)**です。これらの質問は、あなたがメッセージを辿って行くための目印となるものです。

しかし、その前に、まず、祈りからはじめましょう。

親愛なる天のお父様、あなたがつくって下さった今日という日をありがとうございます。今日、教会にいる人、オンラインにいる人、一人ひとりに感謝します。あなたを知っている人は、あなたの言葉と犠牲的な愛を新鮮な方法で聞き、理解することができますように。あなたをまだ知らない人たちが、あなたの聖霊に導かれて、主張がなされた事を慎重に検討することが出来ますように。イエスの御名において、アーメン。

ヨハネ 3:16-18 とは？何を意味しますか？

今日の聖句は、ヨハネ 3:16-18 です。この聖句は、よく知られている聖書の箇所です。これから読みますので、聖書またはスクリーンのヨハネ 3:16-18 に沿ってご覧下さい。

16 神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。

17 神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。

18 御子を信じる者は裁かれない。信じない者は既に裁かれている。神の独り子の名を信じていないからである。

このメッセージをよりよく理解するために、今日の聖句を一節ずつ詳しく見ていきましょう。また、各節を分析する際に、私たちの日本の文脈と関連させるために、私の見解を加えていきます。

まず、16 節の前半から：

16 神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。

この文章を読むと、神は明らかに多くの犠牲を払っておられることがわかります。「16 神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。」とあります。唯一の一人息子を捧げる、又は、犠牲にするということは、どれだけ大きな事であるか、私たちの誰もが納得するでしょう。親になった人、愛にあふれた家庭で育った人なら誰でも、子どもはとても大切な存在です。。。それを捧げるということは、大変なことです。

16 節後半では、神様の犠牲的な贈り物は偉大であり、この犠牲的な愛の意味は、私たちが最初に考えたよりもさらに大きなものであることがわかります。つまり、神様の犠牲的な愛には、約束が伴っているのです。その約束は、私たちの現在の存在と死後の生活にまで及んでいます。

16 節には、次のように書かれています。

16。。。 独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。

より大きなプレゼントとは、「誰でも信じる者」に対する永遠の命の贈り物です。この「誰でも信じる者」には、日本人も外国人も含まれます。これは、信じる者への約束です。これはまた、現在探し求める人と懐疑的な人、そしてその間にいるすべての人に対する機会でもあります。つまり、考えようとする人、「自分の疑いを疑おう」とする、十分に正直な人、この約束はあなたの為のものです。

神の偉大な愛と神の偉大な贈り物は、福音の中心にあるものです。ティム・ケラーはこのように言っています：

「福音とは、イエスが私のために死ななければならないほど私は罪深い存在でありながら、イエスが私のために喜んで死んでくれたほど、私は愛され、大切にされているということです。このことは、深い謙遜と同時に、深い自信につながります。私は誰に対しても優越感を感じることはできませんが、誰かに対して証明する事は何もありません。

つまり、神の贈り物は、ニューヨークの人々、大都市大阪とその周辺に住む人々、日本の内外を問わず、すべての人々（皆全員）のためのものなのです。

日本の友人として、また長期滞在者として、私はいくつかの文化的見識を共有したいと思います。これらの見識から、日本人と神の言葉との似た共通点を示すことができると願っています。

観察その1：日本人は犠牲的な愛を大切にし、優先しているようです。

もっと説明させてください。日本は、アメリカのような西洋の個人主義的な文化とは異なり、集団主義的な原理、たとえば他者への深い配慮や関心、つまり犠牲的なタイプの他者への愛に重点を置く国です。つまり、日本人は日常生活の中で、強い「他者」志向を示すような表現をすることが多いのです。

例えば、「親子丼」：親子丼は、ご飯の上に鶏肉と卵を一緒に煮込んだものを乗せた、日本の代表的な料理です。親子丼は「親子丼」と訳され、親が子に対して犠牲的な愛情を注ぐことを象徴しています。親が自分の欲望や欲求を犠牲にしても、子に滋養を与えようとする姿勢を表しているのです。

自己犠牲のもう一つの例は、「思い遣り」という概念でしょう。他者への共感、思いやり、配慮を重視する「思い遣り」。他人の立場になって考え、たとえ自分に不都合なことがあっても、相手のためになるように行動することです。例えば、満員電車で席を譲ってあげたり、急いでいるのに道を教えてあげたり、さまざまな場面で見ることができます。

同様に、ヨハネ3：16は、神の愛と、他者のために犠牲を払うという傾向を示しています。神は、ご自分にとって大切なものを捨てて、他の人がもっと大切なものを手に入れられるようにしておられるのです。

では、17節を考えてみましょう。

17 神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。

17節には、私たち一人ひとりと深い個人的な関係を持ちたいという神の強い願いが表れています。最も純粋な形の中で自己犠牲的な愛は、多くの意味で関係性の愛である。一般的に、強い人間関係は、非難ではなく、愛と信頼の上に築かれるものです。信頼は時間をかけて育つものです。ですから、忍耐強く、永続的で長期的な質の高い人間関係は、すべての参加者の犠牲と信頼の上に築かれます。

日本での日常生活の多くの場面で、信頼関係の重要性を実感しています。私の2つ目の観察は：

観察その2 - 日本人は信頼できる長期的な関係を大切にし、優先しています。

例えば、職場で、私が初めて日本に来たとき、先輩が私に言った言葉は、シンプルかつ深いものでした。その言葉は、ずっと私の心に残っています。彼はこう言いました。

「デイビッド、人は好きな人とビジネスをするものだ。」

人に好かれるためには、まずあなたを知る必要があります。人々があなたを知り、信頼するためには、時間がかかります。私は長年にわたって、日本人はあなたの事を知るのにかなりの時間がかかるということを学びました。その理由は、あなたやあなたの組織が信頼に足るかどうか、そして何か問題が起きたときに、あなたや組織が問題解決の手助けをしてくれるかどうか、確認したいからです。その信頼を得るには、時間がかかります。しかし、その信頼関係を築くことができれば、その関係は辛抱強く長続きする可能性があります。つまり、私の先輩の観察では、日本人は気に入った相手と長くビジネスをするのです。

英国放送協会（BBC）のビジネス記者は、日本には「少なくとも 100 年以上の歴史を持つ企業が 33,000 社以上ある。」そして、「なぜ日本にはこれほどまでに古い企業が多いのか。」と問いかけました。

<https://www.bbc.com/worklife/article/20200211-why-are-so-many-old-companies-in-japan>

その答えのひとつは、長く続く人間関係を大切にし、優先するからです。世界は日本から多くのことを学べると私は信じています。永続的な質の高い人間関係は重要です。

仕事以外でも、日本では個人的な人間関係が重要です。例えば、高齢の家族への介護です。

日本では、親孝行と高齢者への敬意が文化的に強く強調されています。多くの日本人は、個人的な犠牲を払ってでも、高齢の両親や祖父母を自宅で介護する責任を負っています。そのため、身体的なケアや精神的なサポートを行い、愛する人の幸福を確保するためにかなりの時間と労力を費やすこととなります。

つまり、日本は、仕事の内と外を問わず、さまざまな意味で長期的な人間関係のネットワークで成り立っているのです。ほとんどの日本人、そして日本で長期滞在者達も、日本では人間関係が本当に重要であることに同意するでしょう。

観察その 3 は、より一般的な観察であり、最近行った 2 つの Google 検索に基づくものであり、私の個人的な経験ではありません。Google 検索の結果をシェアする前に、明確に示しておきます。1) 私は世界の宗教の専門家ではないし、2) 日本の専門家でもありません。しかし、私は愛のある、持続的な関係についてもっと学ぶ事に興味があります。犠牲的で愛のある関係について、世界の宗教と日本の神々を考慮しながら、謙虚に私達の考えを広げたいと願っています。

そこで、次の 18 節を考える前に、私が Google で検索してみた結果を紹介します。

Google 検索 (Q&A) その 1 「世界にはいくつの宗教があるのですか？」

「ある推定によると、現在世界中に存在する宗教、信仰団体、宗派は4,000以上*とされています。研究者や学者は、一般的に世界の宗教を5つの大きなグループに分類しています：キリスト教、イスラム教、仏教、ヒンズー教、ユダヤ教です。」2022年6月20日(木)

<https://www.visualcapitalist.com/cp/visualizing-religions-worldwide/>

はっきり言って、世界の宗教は沢山あります。キリスト教でも、いろいろなタイプのバリエーションがあります。例えば、ある人はバプテストと名乗ります。また、長老派などと名乗る人もいます。しかし、キリスト教信者にとって聖書に基づく教義は重要ですが、宗派の名前よりも重要なことが他にあります。実際に、聖書はこれらの宗派については語りませんが、イエス・キリストとの個人的な関係については多く語っています。繰り返しますが、人間関係は重要です。

2つ目のGoogle検索についてですが、私は日本が「日出ずる国」として知られていることを知っています。また、太陽の女神である天照大神が神道の最も重要な神の一人と考えられていることも知っているので、Googleに尋ねてみました：

Google 検索 その2 (Q&A) - 「日本には何人の神がおられるのか?」

8百万人

日本語で**神道**という言葉は、「神の道」を意味し、無数の神々の存在を定義しています。

日本の神道の神々の数は、準無限大で800万とも言われています。

2022年6月16日 (<https://www.kanpai-japan.com/religion-and-spirituality-in-japan/>)

さて、2回目の観察で、人間関係が重要であることを確認しました。さて、このGoogle検索をもとに、私たちは同意するのではないのでしょうか...それは多くの神々であり、多くの宗教であるという事です。そして、いくつかの重要な質問することになります。「では、これだけの数の宗教と神々がいて、どうやって800万人の神々に従い、神々を満足させることはできるのでしょうか?」

この質問を心に留めながら、これが3つ目の観察につながりました。

観察その3 - 日本人は明らかに犠牲的であり、関係的であり、特定の宗教や何百万もの神々よりも、犠牲的な関係を重視し、優先しているように思われます。

ですから、この観察をしっかりと持っていてください。次のセクションで、18節との関連で詳しくお話しします。- なぜ?

なぜヨハネ3:16-18が重要なのでしょうか。なぜ気にしなければならないのでしょうか?もう一度言いますが、だから何なのでしょうか。

何千もの宗教と何百万もの神々が存在することを考えると、ヨハネ 3:16-18 は、何が最も価値があり、生ける神にとって最優先される事なのかを明確にするのに役立ちます。実際に、ヨハネ 3:16-18 は、世界のすべての宗教と日本のすべての神々に関連する質問に答えるのに役立っています。

具体的には、先ほどの観察に基づき、ヨハネ 3:16-18 が重要であるのは、つぎの___した箇所のためです。

1. 日本人は犠牲的な愛を大切にし、優先しているようです。 神もそうです。

神は、ご自身の言動のすべてにおいて、犠牲的な愛を大切にし、優先し、示しておられます。神の私たちへの愛は深く、広いです。私たちが永遠の命を得る事が出来るように、私たちの罪のために、ひとり息子を死なせて下さったほど、私たちが愛して下さっているのです。神は、絶え間なく私たちが愛で追い求めます。

ローマ 5:8 には、「しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました。」

第1ヨハネ 4:9-10 には、「神は、独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、わたしたちが生きるようになるためです。ここに、神の愛がわたしたちの内に示されました。わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。」

2. 日本人は信頼出来る、長い付き合いを大切にし、優先します。 神もそうです。

神は、人間関係が宗教よりも重要であることを評価し、優先し、示しておられます。ヨハネ 4:16-18 は、神が何をなさったのか (私たちが何をしたのかではなく)、私たちにわかるようにしてくれます。

神の愛は、あなたのパフォーマンスではありません。つまり、神の愛は、救いがあなたの善行や宗教的儀式によって得られるものではないことを示すのです。焦点は、あなたやあなたがした事ではなく、イエス・キリストを通して神がなさった事にあるのです。

さらに、神の愛は、神の「他者志向」—神の犠牲、神の憐れみと赦しによって示される。神の言葉は、イエス・キリストを信じ、救い主として受け入れる人なら誰でも、救いが得られることを強調しています。それは、イエス・キリストを信じる信仰による恵みの無償の贈り物である。

#観察その3 - 日本人は、特定の宗教や何百万もの神々よりも、日常生活の中で犠牲的な「他者志向」の関係を大切にし、優先しているようです。 神もそうです。

さて、ここで18節をもっと考えてみましょう。

18 御子を信じる者は裁かれない。信じない者は既に裁かれている。神の独り子の名を信じていないからである。

この節で、神は私たちに、唯一無二（独占性）対 排除性において重要で大きな違いを知り、理解することを望んでいます。

今日のメッセージの「なぜ」の部分締めくくるにあたり、説明させて下さい。

概して、ヨハネ 3:16-18 は、キリスト教信仰の核心を語っています。この箇所では、イエスは、神がそのひとり子を与えたほどに世を愛されたのは、彼を信じる者が滅びることなく、永遠の命を持つためであると説明しています。この聖句は、イエス様を信じるのが、神様のもとで永遠の命を得る唯一の方法であることを強調しています。今日、多くの人々が、すべての宗教が等しく有効であり、神への道は沢山あると信じています。しかし、イエス自身は、イエスとの関係が神への唯一の道であると言っており、ヨハネ 3:16-18 は、救いがイエス・キリストへの信仰によってのみもたらされることを明確にするのに役立っています。

具体的には、この主張の中に、この独占的な排他性（唯一無二）は排除を意味するものではないということが埋め込まれています。

むしろ、すべての人がイエスのもとに来て、救いを受けるようにというお招き（招待）なんです。それは宗教についてではなく、真の生ける神との長期的で永続的な（辛抱強い）関係への道筋です。

伝統的な宗教について、ティム・ケラーはこのように言っています。

「伝統的な宗教は、『私は神様に良い道徳的な記録を与えているので、神様（又は女神）は私を祝福しなければならない』と言います。福音書は、『神はキリストを通して私に良い道徳的な記録を与えてくれた、だから私は神を祝福したい』と言っている。宗教は『私が従えば、神様は私を愛し、受け入れてくださる』と言います。福音は、『神は私を愛し、受け入れてくださる、だから私は従いたい』と言うのです。」

まとめると、ヨハネ 3:16-18 は、イエス・キリストを信じるすべての人に与えられる救いの贈り物を通して、信者と未信者、日本人と日本人でない人という私たちに対する神様の驚くべき愛を思い起こさせてくれます。

今日のメッセージの最後に、「どのように」の質問を考えてみましょう。

ヨハネ 3:16-18 のメッセージを、私たちはどのように、信じる者、信じない者のすべての人生に適用することができるでしょうか？

日本人と日本人でない人

まず、あなたがクリスチャンと名乗るなら、このメッセージを愛と効果のある方法で他の人に伝えることが重要です。私たちの日常生活において、この箇所は、イエス様への

信仰の大切さを思い出させてくれます。そして、私たちが神から受けた愛と恵みを反映した生き方をするようにも求めています。また、この愛と希望のメッセージを他の人々に伝え、イエス・キリストとの関係から得られる喜びと平和を、他の人々も経験できるようにすることも求められています。

具体的には、私たちの行動や言葉を通して、キリストの愛を他の人々に示すことによって、このことを実現することができます。クリスチャンは、イエス・キリストの模範に従うことで、行動と言葉を通して愛と恵みを示すことができます。

ヨハネ 13：34～35 で、イエスはこう言っています。

「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」

35 互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる。」

愛することが難しい人であっても、すべての人に愛と恵みを示すための実践的な方法があります。

1. **彼らのために祈る：** マタイ 5：44 で、イエスは私たちの敵を愛し、私たちに迫害する者のために祈るようにと語っています。
44 しかし、わたしは言うておく。敵を愛し、自分を迫害する者の為に祈りなさい。

気難しい人々のために祈ることは、神の目を通して彼らを見ることができ、彼らに対する私たちの心を和らげることができます。

2. **優しさを示す：** エフェソ 4：32 では、私たちは互いに親切にし、憐れみ深くあるようにと指示されています。

32 互いに親切にし、憐れみの心で接し、神がキリストによってあなたがたを赦してくださったように、赦し合いなさい。

たとえ小さなことでも、親切にすることは、誰かの人生に大きな変化をもたらすことがあります。

3. **相手を赦す：** コロサイ 3：13 には、主が私たちに赦してくださったように、私たちも人を赦すようにと書かれています。

13 「互いに忍び合い、責めるべきことがあっても、赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたも同じようにしなさい。」

赦すことは難しいかもしれませんが、愛と恵みを示すためには欠かせない事です。

4. **愛を持って真実を語る：** エフェソ 4：15 には、「むしろ、愛に根ざして真理を語り、あらゆる面で、頭であるキリストに向かって成長していきます。」と、私たちに励ましてくれています。

ですから、私たちは気難しい人には正直に接し、しかも尊敬と愛情をもって接するべきなのです。

クリスチャンとして、私たちの行動と言葉は、神様が私たちに示してくださった愛と恵みを反映したものであるべきです。そうすることで、私たちは他の人たちの光となり、キリストの愛を示すことができるのです。

未信者は、ヨハネ 3:16-18 をどのように自分の生活に適用できるでしょうか？

私たちは、あなたがここにいる事を嬉しく思っています。あなたが人生の中でどのような位置にいるかによって、あるいは求道者であるか懷疑者であるかによって、キリスト教を探求したり、疑問を持ったりする際に、これらの提案をいくつか紹介します。

探し求める人

1. **聖書を読む**：新約聖書、特に福音書（マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネ）から始めるとよいでしょう。これらは、イエスの人生、教え、そしてミニストリーについて記述しています。
2. **キリスト教文学を研究する**：キリスト教の著者が書いた、信仰に関する洞察に満ちた本を調べてみる。もしもっと学ばれたいなら、OIC には、これらの本が置いてあります。
3. **教会の礼拝に参加する**：地元の教会を訪れ、キリスト教の礼拝を体験し、地域のコミュニティを観察し、信者との議論に参加する。
4. **他の人と話をする**：クリスチャンや牧師と話をし、質問に答えてもらったり、疑問を解決してもらい、霊的な旅路の指針を与えてもらう。
5. **振り返り、瞑想する**：道徳的、哲学的、霊的な側面を考慮しながら、イエスの教えと自分の人生への影響を熟考する時間を持つ。

懷疑的な人

1. **研究を行う**：より包括的な理解を深める為に、イエスの生涯、キリスト教の起源、聖書的なテキストの信頼性などに関する歴史的、学術的な文献を調べる
2. **批判的に考える**：キリスト教の主張、教義、議論について、合理的な思考、論理、証拠に基づく評価で吟味し、分析する。
3. **別の視点を探求する**：他の宗教的な伝統や、哲学、世界観などを研究し、より広い視野で比較し、批判的に評価する。
4. **他の人と話し合う**：自分の信仰に詳しいクリスチャンと話し合い、尊敬と思慮に満ちた意見交換をする。

5. 個人の信念を振り返る：自分の世界観、価値観、原則を自己評価し、キリスト教がそれらとどのように一致し、あるいは対立しているかを熟考する。

探し求める人や懐疑的な人は、疑問を持ったり、学んだり、成長する広い心と意欲を持って、キリストの探求に取り組むことをお勧めします。

まとめと祈り

私はこのメッセージの冒頭で、「人は誰でも死ぬ」という当たり前の事実を述べました。そして、私が個人的に尊敬するティム・ケラーという牧師が最近亡くなった事について述べました。今日のメッセージを通して、日本人にとっても、クリスチャンにとっても、犠牲的な信頼出来る関係が重要であることをお伝えしました。

最後のお祈りの前に、ティム・ケラーとその息子マイケルとの親子間のやりとりを紹介したいと思います。これは、ティムがマイケルと生前に交わした最後のやりとりだったと伝えられています。

ティムの息子のマイケルは、父の死と「家に帰る」ことをこの様に表現しました。

息子（マイケル・ケラー）

「夫、父、祖父、指導者、友人、牧師、そして学者である、ティモシー・J・ケラーが、今朝自宅で亡くなりました。パパはママと二人きりになるまで待っていました。彼女は彼の額にキスをし、彼は息を引き取りました。私たちは、彼の最後の言葉の数々に安らぎを感じます。。。

父（ティム・ケラー）

“私が出て行くことにデメリットはない、微塵も”

息子（マイケル）

“またね、お父さん”

—

人は誰でも死にます。

あなたはティム・ケラーのように自信を持って言えますか？

「私が去ることにデメリットはない、微塵もない」と。。。

マイケルのように

「またね、お父さん」と自信を持って言えますか？

—

祈りましょう。

親愛なる天の父よ、

ヨハネ 3：16-18 は、私たちに対するあなたの大きな愛と、私達を罪から救うために捧げられた犠牲について教えてくれています。あなたは私達を創造し、私たち一人ひとりとの関係を望んでおられます。

私たち信者は、キリストの愛を示し、イエスへの信仰によって得られる恵みと赦しを強調しつつ、愛と効果的な方法で、このメッセージを他の人々とよりよく分かち合うことができるように、助けてください。

探し求めている人や懐疑的な人は、ヨハネ 3:16-18 が、あなたの愛と恵みを最も明確に表現している事を知ることができますように。あなたが愛と恵みで彼らを追い求めるように、彼らがあなたに問いかけ、追い求め続けることが出来ますように。

イエスの御名において。

アーメン